

計画概要

現状と課題

- ・積丹地域では、近年、スケトウダラ、ホッケなど回遊魚資源が激減やウニなどの浅海資源も磯焼けなどの影響により水揚げが減少傾向にあり、漁家経営は厳しい状況。
- ・6～8月を漁期とするウニが町の経済を支える柱の一つとなっているが、ウニ漁業は気象条件や海況の影響を受けやすく、時化が続くと飲食店等への供給が滞り、繁忙期が3ヶ月間限定であるにもかかわらず、販売機会を逃してしまうことが多いため、**ウニの安定供給が地域の課題**。

取組内容

■ウニ蓄養とコンブ養殖の複合経営の実証事業

- ・美国漁港内荷捌所内に導入したウニ用の陸上蓄養水槽を活用し、海況に影響を受けないウニの出荷体制を構築する。
- ・陸上蓄養を行う上で必要となる餌料として、美国漁港区域内でコンブ養殖を行うとともに、新芽コンブを食用出荷する。

【H30年度補助事業】

- ・事業主体 東しゃこたん漁業協同組合
- ・事業内容 コンブ養殖施設 60～80m×4基、養殖資材 一式
- ・総事業費 786,830円
(うち 道318,000円 積丹町410,546円 東しゃこたん漁協58,284円)

期待される効果

(1) 養殖業を柱とした出荷体制の構築

- ウニ蓄養を行う上で必要となるコンブ餌料が安定確保できることで、既存の陸上蓄養水槽を活用した、海況に影響を受けないウニの出荷体制を構築

(2) 漁労作業の合理化・効率化

- 蓄養ウニの採捕や給餌、塩水パックへの加工及びコンブ養殖にかかる各作業の参画漁業者による協業体制を構築することで、作業量・作業時間を軽減

(3) 付加価値化したウニ・コンブを出荷し、所得の向上

- 蓄養ウニは塩水パックに加工し、6月～8月の時化が続いた際や漁期外（9月）に高値出荷
- 新芽コンブは漁獲し袋詰して、食用として地元飲食店向けに出荷
⇒ 付加価値向上及び安定供給により所得向上
- 観光客へのウニ井づくり体験（※）に提供し、観光資源として活用
※主催は（一社）やん衆小道協会（ヤマシメCafé）、開催場所は「練伝習館ヤマシメ番屋」

事業位置図



養殖施設設置状況



養殖コンブ漁獲状況



新芽コンブ出荷状況



蓄養ウニ 取り上げ状況



ウニ井づくり体験



蓄養ウニ 加工状況



蓄養ウニ 加工製品出荷状況